

Y.H (40代男性)

■受験歴

2016年 1次4科目合格(難化した情報システムで足切り) 【1次学習法】全て独学
2017年 1次合格/2次不合格(ABAC) 【2次学習法】MMC通信(2次直前)
2018年 2次不合格(BACB) 【2次学習法】MMC通学(2次直前を除く)
2019年 1次合格/2次合格 【2次学習法】独学

■MMCを選んだ理由

1次試験の合格を確信した時点で2次試験に関する情報ゼロ、勉強時間ゼロ、右も左も分からない状態でした。とにかくヤバイとネットで情報収集したところ、2次特有のお作法やキーワード解法などの情報が溢れるのを目の当たりにして、効率よく学習するため受験校を活用することを決意。

そんな中MMCは、①解法が確立されており、②「80分で書ける合格レベルの答案」を目指す地に足がついた方針を掲げており、③答練では即日フィードバック返却を行いこれが良いらしい、との評判を目にしてお世話になろうと決めました。

■MMCの講座を受講してみて(直前通信)

MMC通信講座に申し込むとしばらくしてから各種書類が届きます。この内、自分にとっては平成13年から前年までの過去問ならびにMMCの解答解説集(模範解答)と学習ガイドブックが自主学習における重要な羅針盤となりました。

通信講座は、答練の答案提出と添削済み答案の返却をネット経由で行い解説動画を見ながら学習する形式ですが、動画を繰り返し再生できるのが利点で、1.5倍速で繰り返し聞くと徳川先生の「〇〇、〇〇、〇〇などの何々情報」といったキャッチーなフレーズが記憶の深層に突き刺さります 笑

■フィードバック付き返却の衝撃と2次1回目の振り返り

解説動画は一方向のツールなので不安になることもあったのですが、直前模試の「フィードバック付き返却」を申し込んだところ、これがその後の受験生生活を定める強烈なインパクトを受ける体験となりました。

1対1の面談形式で、相手は中居先生。模試の結果は全く話にならない成績でしたが、それを踏まえて非常に丁寧に、こちらの不安を見抜くような的確なアドバイスを中居先生らしい軽妙な語り口で伝えて下さり、その時点での自分の問題と課題、あと1.5ヵ月で何をすべきかの方針など、ヒントとなる情報すべてを与えていただきました。面談後、近くの公園のベンチで面談中に書き取れなかったアドバイスを夢中でノートに書きこんだ記憶があります。

大げさでなく、この短時間の面談により自分の実力が急上昇した手応えを感じ、本番に臨むことができました。結果は ABAC だったので、事例 I~III を一人前にするのが精一杯で、事例 IV の時間切れで合格に届かなかったのだと思います。

ちなみに結果論ですが、一次と並行して事例 IV の勉強を GW 辺りに集中して行えていれば、2 次は 1 回で合格できたかもしれません。皆さんも「2 次は 1 次合格後の 2 ヶ月で十分」という声を聞くことがあると思います。ただ、事例 IV は毎年出題される論点はある程度絞り込めるのに出題のされ方に振幅が大きく癖が強いところがあるため、時間をかけて準備しておくことで得点の安定化が図れるものです。「どのような試験か？」を理解するため、まだ学習ペースに余裕を持てる GW に MMC の特別講座を受講されることをお勧めします。

■MMC の講義を受講してみて (通年通学)

・事例 I~III

MMC の学習ガイドブックを自分自身の解法として習得していくために重要な時間を得られます。戦略とオペレーションのレイヤーの見極めの重要性は説明を聞いて深く納得でき、「題意に忠実に」「多面的に」も数多くの答練を経験することでどのようなことなのかを体験し学ぶことができます。

また、午前中に解いた答練を昼休みに返却されるため、時間差による記憶の脚色などは一切ない状態で、「なぜこの切り口で書いたのか？」といった自分の癖、モレや重複などに真っすぐ向かい合うことができます。これは強いインパクトとして記憶に残り、学習効果も高いものでした。

・事例 IV

MMC の事例 IV 対策は、噂通り非常にレベルが高いと感じました。私が特に重宝したのは、毎回授業の終わりに配られる「応用問題」と GW オプション講座で配られる「アカウンティング・フィナンシャル問題集」です。

令和元年の本試験で出た「第 1 問で計算した四捨五入済みの変動費率を第 2 問で使う」とか「黒字企業の赤字事業における税計算」は、上記の問題集の中で経験済みでした。自主学习では当然の様に間違えた結果、「こんなのアリか？」と強烈に記憶に残ってくれていたお陰で本試験では対応できました。授業における解説も勿論ですが、やはり MMC の事例 IV 対策は合理的というか、この資格試験の対策として最強だと感じています。

■2 次 2 回目の振り返り

答練でも段々上位に入るようになり、9 月の直前模試では総合で上位 5% 入りし、事例 I は科目別で 1 位を取りました。これで安心したとは言いたくありませんが、折悪く 9 月後半から試験直前まで仕事が非常に忙しくなったこともあり、試験の 3 日前に風邪で発熱す

るなど本試験まで好調を維持できませんでした。

またこれは深く反省しましたが、前年に比べて過去問の分析が不足していました。講師の皆さんも折あるごとに「これを踏まえて本試験の過去問研究に励んで下さい」と仰るのですがここをきちんと受取りきれず、答練や模試の研究に偏り過ぎてしまいました。

結果は BACB。1 回目よりも点が下がり、非常に落ち込みました。試験を辞めるかどうかまで真剣に悩みましたが、授業中の「この試験は周りが脱落していく中、自分は耐え抜いた結果“勝ち残る”試験です」という言葉を思い出しました。実際の文脈は、試験勉強中あるいは本試験中のミス数をいかに減らすか？という話でしたが、勝手に「もう少し頑張れ！」と解釈しもう 1 年頑張ることにしました。

■独学時代も過去問分析に MMC メソッドを活用

2 次 3 回目は 1 次試験からの受け直しということもあり、2 次試験は独学を選択しました。1 次が 7 科目全てやり直しであったこと、2 次 2 回の受験経験ですすがに「どのような試験か？」の理解もできていたことから、8 月までは 1 次に専念しました。

8 月の自己採点后、まず 8 月末までは事例Ⅳに集中しました。MMC の応用問題と GW オプション講座の問題集（アカウンティング・フィナンシャル）を 2 周です。9 月以降は事例Ⅰ～Ⅲに注力しました。その間、事例Ⅳは毎日 1 問ずつペースに移行し、実力維持に努めました。事例Ⅰ～Ⅲは手元にある過去問平成 13 年からの過去問&解答解説集をフル活用しました。

具体的には、事例Ⅰ～Ⅲは、初年度のフィードバック付き返却での中居先生の助言に立ち戻り、過去問の設問ごとに「どのレイヤーが問われたか？事例Ⅰなら、企業戦略か？人事か組織か？」の当たりを付ける特訓を過去問 10 年分行いました。3×10 年間なので 30 事例、ひたすらレイヤー当てだけを行い体に染みつかせるようにしました。

また「題意に忠実に」のコツとして日本語の抜き取りに注意して過去問の与件文と模範解答を分析しました。あるとき「俺様答案」すぎて悪目立ちした答練だったことがあり、その時に中居先生が仰っていた「2 次試験でストレート生がスルスルーっと合格しちゃうパターンとして、知識がない分、与件文の文言を素直に解答用紙へコピーした結果、それが上手くはまるときがある」という言葉からの学びは、最後まで心がけました。

■2 次 3 回目の振り返り

本試験前は今年も仕事が多忙を極めました、前年の経験を活かし、学習ペースと健康維持に努めました。これまでの 3 年間ずっとそうでしたが、家族の助けなくしてこれは実現できませんでした。

本試験前夜は十分な睡眠時間を確保し、気力体力十分で試験に臨むことができました。その甲斐あってか、全ての事例で 5 分ほど時間を余して解き終わることができました。恐らくレイヤーの判断、解答骨子となる重要な文言の抜き出しの特訓の成果が出たのかと思います。

ます。

令和元年の本試験は全体的に与件文が長く、設問のされかたも変化し、対応が簡単ではない年でした。これに対し、自分が合格点に至る対応ができたのは、MMCで学んだことを素直に解答として組み上げる境地に2次3回目ようやく届いたということかと思えます。

■最後に

合格体験記を書いてみて、自分が「インパクト」「衝撃」という言葉を多く使っていることに気付きました。中居先生の軽妙、明確、超論理的な解説も、徳川先生の「大丈夫だから！」も、全てインパクトの大きさ×回数分だけ受講生の記憶に刻まれ、本試験での論理的な閃き（感覚的な閃きでなく）に繋がるものであったと思い、深く感謝申し上げます。

またこの場を借りて、3年前に勉強を始めることを相談したときに背中を押してくれ、思いのほか長引いた受験生活の間、家事育児の負担を思いっきりかけてしまった妻と、合格まで「お父さんと一緒に遊びたい」を我慢して待ってくれた一人息子に深く感謝します。

私にとってこの資格試験はこれまでの人生で最大とも言える挫折を経験する辛いものでした。

その間、MMCには大変お世話になりました。先生方、本当にありがとうございました。

終わり